**◆ごあいさつ**

平成27年度よりご使用の生活科教科書につきまして，啓林館発行の「わくわく　せいかつ上」，「せいかつ たんけんブック」，「いきいきせいかつ下」をご採択いただき，誠にありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。

本冊子は，カリキュラム作成や教科書全容の研究などのための資料をまとめました。各巻の単元の目標・評価規準，小単元の目標・評価規準，配当時間，さらに評価の具体例と支援などを掲載しております。ご参考にしていただければ幸いです。

**◆カリキュラム作成の手順**

1．学校全体のカリキュラム見直しを行う

平成20年の学校指導要領で，これまで示されていた8項目の内容が9項目に再構成されました。気付きの質の高まり・深まりを目指した，「生活や出来事の交流」が増えた内容にあたります。ただ，生活科の本質の部分は変わっておりませんので，従来同様，活動を重視したカリキュラムが求められ，また，子どもの興味や関心，地域環境の特色に応じた教材の選択や開発など，各教師，各学校のカリキュラムへの創意工夫も求められ，期待されています。

自校のカリキュラム検討にあたっては，学習指導要領の趣旨を十分に理解した上で，昨年までのカリキュラムを教師，子ども，保護者，地域の支援者らの感想や意見，提案なども含めてふり返り，継続すべき活動と改めるべき活動とを見定めていく必要があります。この作業を綿密に行わなければ，前年度の失敗を繰り返すことにつながるだけでなく，マンネリ化に陥りかねません。

2．単元となる活動のまとまりを考える

　昨年度の活動をふり返り，学校や地域の実態，低学年の生活のようす，教師の願いなどをもとに活動のまとまりをイメージします。

⇒生活科の「9つの内容」，教科書などを参考に活動を考えます。

⇒学校全体の「研究テーマ」や「育てたい力」などから，今年度の生活科のテーマや強調点を考え，それをもとに活動を構想していくことも可能です。

3．単元目標を設定する

学習指導要領に示された教科目標・学年目標(2学年共通)・内容も十分考慮に入れながら，目標を考えます。

⇒指導要録の3つの観点「生活への関心・意欲・態度」，「活動や体験についての思考・表現」，「身近な環境や自分についての気付き」から，目標を考えることもできます。

4．2年間を見通して単元配列，配当時間を考える

第1学年から第2学年までの全体を見通して，2年間のスパンで学習活動のまとまりを配置していきます。

⇒まず，季節や地域行事にかかわる活動のまとまりを該当の時期に配置します。

⇒1・2年生の交流活動やその他の学年との交流活動を計画する場合は，それぞれの学年で話し合い，計画に盛り込んでいきます。

⇒生活科の2年間を通して「9つの内容」を視点にし，学習内容の全体的なバランスを考え，配当時間も考慮に入れて決めていきます。

5．単元名を考える

　それぞれの活動のまとまりごとに，子ども達の興味や関心を引く魅力ある単元名をつけます。

⇒学校全体を通しての研究テーマや今年度の生活科のテーマをもとに，各単元のつながりを意識した一連の単元名で構成するのも一案です。

6．単元の展開計画を立てる

　子どもの学習意識の流れに十分配慮しながら，単元の展開計画を立てます。

⇒子どもの興味や関心をもとに，学習を始めることや，具体的な活動や体験を通して学習を進めること，子どもの思いや願いを多様な方法で表現すること，活動が日常化するように配慮することなどに留意しながら，できるだけ具体的に計画を立てます。

⇒活動を進める上で，活動の場の設定や学校内外の支援者の確保は不可欠です。この段階から意識して展開計画を立てるようにします。

7．配当時間を調整する

全ての活動が，第1学年での102時間，第2学年での105時間の範囲に収まるよう時間を配当します。

⇒子どもが主体的に活動し，対象に深くかかわることができるよう，ゆとりを持って各単元の配当時間を決めていきます。

⇒学期ごとに数時間のゆとりを設けておくようにします。活動が広がり，時間がオーバーしたときなどに調整できます。

⇒動植物教材などの継続的な観察や飼育については，休み時間なども活用するようにすると，時間的なゆとりを生じさせることができます。

※本資料は，啓林館Web Station

http://www.shinko-keirin.co.jp/ からダウンロードしてご利用いただけます。

※本資料は平成26年8月段階のものですので，平成27年度発刊予定の弊社教師用指導書『わくわく せいかつ上』および『いきいき せいかつ下』の内容とは若干異なる場合がございます。

１